

磐城時報

福島縣石城郡平町編者十四
印刷所 加納活版所
印刷部 加納活版所
發行所 磐城時報社
電話 二二九三
廣告料 一行十四字日金五十銭
日刊（日曜、祭日休刊）

平町特別税戸數割 修正案通り決定

修正人員三百三十七名 多額納税者十名

昭和四年度後期特別税戸數割課
課額決定の平町會本會議は二十
九日午後一時から開き青沼委員
長の修正経過の報告あり、修正
金額は二百八十九圓二十銭で人
員三百三十七名、この中増額し
たもの百四十二名、減額したもの
の百九十五名で修正案通り可決
した、原案より三圓以上増減さ
れた者左の如し。

- ◎三圓以上増額されたもの
 - ▲五圓中西林藏 ▲三圓藤本順
 - 山崎元三郎、齋藤鐵次郎、大
 - 谷直次郎、青木秀次、皆川新
 - 一、丹野榮三郎、星野久八、
 - 安齋徹、駒場四郎、門傳清吾
 - 永山小平、馬目勝次郎、柏原
 - 幸次郎、長小次郎、鈴木實雄
 - ▲五圓渡邊傳三郎、横山萬藏
 - 河田梅吉、小原喜八、森下庄
 - 吉、小野伊佐治、田名綱申藏
 - 松崎長太郎、五十嵐小平、加
 - 藤政保、金子重次 ▲十一圓山
 - 下三郎 ▲十五圓山田文一 ▲十
 - 圓諸橋敬一郎、阿部唯次郎、
 - 石島一徳齋
- ◎三圓以上減額された者
 - ▲三圓端山正男、大谷傳三郎
 - 志賀徳次郎、柏原真吾、菅
 - 本富次郎、柏原真吾、佐藤武
 - 之、愛澤長資、椋木正吾、織
 - 田安次郎 ▲五圓和田禎宗、馬
 - 目玉彌、酒井重雄、近藤ウメ

二町議の失格問題で 平町から行政訴訟

満場異議なく決定

平町會議員坂本隆藏、緑川喜三
郎兩氏の失格に關する異議申立
期間は十二月四日に迫つたので
のちで訴訟手續きをとる事にな
つた。

平町の 陪審員決定

二町議の失格問題は平町會と
縣參事會の意見の相違から起
つた問題で果して何れが妥當
であるかは最高判斷の場所であ
る行政裁判所の機關がある
のであるから平町の体面上並
に平町會の意志繼續の点から
考へて是非行政訴訟を提起し

磐城剣道會 平商業學 校では十二月十五日午前十時か ら同校内で石城剣道會を催はし 終つて紅白を行ふ。

校では十二月十五日午前十時か
ら同校内で石城剣道會を催はし
終つて紅白を行ふ。

奉安庫起工 相馬郡新 館村小學校にては今回奉安庫 建設する事となり工費金一千 七百餘圓を計上し近く工事に 着手する筈なるが全部石造な らう。

館村小學校にては今回奉安庫
建設する事となり工費金一千
七百餘圓を計上し近く工事に
着手する筈なるが全部石造な
らう。

平局新築場の 足場から墜落

双葉郡久ノ濱町大字田綱字横内石城郡勿來町小學校舊校舍は今
左官職鈴木芳太郎(三二)は二十春競買に附したが不況の折柄と
九日午後四時頃平町四丁目地内で買手なく處置に窮してゐたが
に新築中の平郵便局工事中高きその後種々組合飼育場青年
二十五尺の足場から踏み外し轉館等と併り利用され現在では僅
落南町上田病院で加療中であつたか一棟を残すに過ぎなくなつた
たが三十日午前二時半死亡したのでこの際適當な買手を求めて
賣却すべく同時に敷地も三間半
の道路を作つて窪田町裏通りと
して宅地拂下を行ふ等幾多の
非難を浴びつゝ當局が約一年に
亘つた悩みの種も漸く解決する
事となつた。

委員をあげて反対 平町會で態度決定

石城郡内郷村磐城炭礦株式會社
が平町、飯野、内郷三町村地下
探掘の件を其筋に出願したため
仙臺礦山監督局では平町にその
賛否を諮問して來たので平町で
は二十九日平町町會を開き之に
對する態度を協議した結果左の
如く反對の答申をする事になり
尚ほ委員をあげて反對陳情をな
す事になつた。

反對陳情 常磐炭礦一致

常磐地方の各炭礦會社が今回の
労働組合法案に各方面の炭礦會
社と結束して運動を續行し各炭
礦會社と一致反對の調印をし
たので近く一會社より二名の委
員を擧げ仙臺礦山局並に内務、
商工兩省に向つて極力反對の陳
情をなす筈である。

嫁の世話 口實に訴訟

石城郡内郷村大字白水高久喜一
(四五)は同村不動澤高橋源吉の
娘ヨシ(二〇)を同村大字宮字平
太郎居住佐々木鐵雄に嫁に世話
すると欺き鐵雄から廿一圓を捲
き上げた事發覺平署に捕はれた

虎捕山踏破 原町 櫻 井 生

霜枯れの去る二十四日午後よ
り同行二人で紅葉狩とまで
は行かずとも一日の清遊とし
て俄かに旅装を整へ地方の耶
馬溪と稱せらるゝ大須村佐須
の虎捕山の峻峯に遠足を試み
た。同山は山神山津見神社鎮
座せる處にして當社建立因源
は後冷泉帝の御宇賊墨虎なる
もの存り性強膽暴兇同類相結
び部下を引率し遠近の良民等
の財物を掠奪し此の時に當り
民之を苦しむ、此の時に當り
て源頼義公鎮守府將軍に拜せ
られ奥羽を鎮撫し給ふ良民等
難を公に訴ふ、公直ちに之を
征伐し給ふ、墨虎岩代の靈山
の峻に據り頑固に抵抗す、雖
も力の抗すべからざるを覺り
山腹の巖洞に匿る其洞今に山
の中腹にあり十五六人を容る
るに餘りあり、是れを虎捕洞
と云ふ、公其の踪跡を得ざる
を惱み給ふ公山神の記夢に感
ず公の臣藤原の景澄に命じ郷
人を嚮導して墨虎を刺殺さし
む遠近始めて安堵、公直ちに
此處の山嶺に山神の祠を建て
報賽し給ふと云ふ、故に此の
山を虎捕山と稱す、又墨虎を
刺し給ふを以つて本字を佐須
(刺)と永遠に傳へしなり、後
國司源顯家郷城を靈山に構へ
給へしより頼義公の遺蹟を敬
重し皇家の爲め屢々祈誠し玉
ひし舊社なりしが何向き山又
山の中とて晝尚暗き社殿なり
しが當社掌久米松太郎氏が今
十一月十五日を以て私設電燈
を起し三十數点を点火したる
を以て夜尚晝を欺く許にして
一層の美觀を添へたり、而し
て記者等一泊の饗應を受けて
翌日下山した。

原町通信

少年雄辯會

濱三郡の少年雄辯會は来る十
二月二十日縣立相馬農藝學校
に於て開催の由。

八澤村の朝火事

相馬郡八澤村南屋形字山畑農泉
川龜次郎方から二十八日午前
六時頃發火し居宅一棟を全燬
し同八時頃鎮火せしが原因は
龜次郎が物置小屋に積置中提
灯より燃え移りたるもので損
害は約四百圓。

伊勢參宮團體募集

相馬郡大甕村宇小濱團院内
泉東海氏主催にて毎年伊勢參
宮及關東、關西の勝地視察團
募集中であるが、甲種は旅行
日程十六日で一人の會費は五
十八圓八十銭、乙種は旅行日
程五日間で一人の會費は十七
圓八十銭の由、第一回出發は
本年十二月十三日、第二回は
昭和五年一月二十七日、何れ
も同日午後十時乗車原町驛發

▲軍事普及活動 相馬 郡在郷軍人分會主催の下に各町村軍事普及活動寫眞は既報の如くなるが、當原町分會では二十九日午後六時より同町旭堂に於て開會したが入場者多数盛會であつた。

▲農學校夜間演習 縣立相馬農學校生徒は二十八日夜間原町陣ヶ先山麓に於て久世大尉指揮の下に夜間の兵事動作の發火演習を舉行した。

▲竹の子來る 平町聚樂館では十二月一日から七日間下山竹の子二座で開演するが藝も新しいものを選んでので前人氣頗るよし。

醫師の立場

同 情 (生寄) 藥九層倍といふ... 毎日傳や自動車に乗廻して往診斷がいくら、藥價がいくら、入院料がいくらと、嫌な元手もかけずに暴るのは醫者だといふやうなことはよく聞くことだ。なるほどさう思へば醫者は高

醫者だつて競争者がある、門戸も相當に張らなければ患者から馬鹿にされる、一日に何人かの患者を見るためにはテ

しなければならぬのだ。病院ならば二百圓以上の醫者を何人か頼まなければならぬ

その上金解禁準備に伴ふ公私經濟緊縮といふ聲が極端に民心を萎靡させて近ごろの淋れ

は我慢して終ふらしいその上輕費診療だの簡易保險の健康相談所などいふのが現れて

時報文藝 俳句 佐藤 麗帆 枯れ行くに寂しく鳴けるきり

時報文藝 俳句 佐藤 麗帆 枯れ行くに寂しく鳴けるきり

夜寒はやたき火の跡の霜白し

昭和四年營業報告 (十月卅一日現在)

Table with financial data including 貸借對照表, 資産之部, 負債之部, 未拂込株金, 地所建物, 機械器具, 天然水池, 未收入金, 什器, 銀行勘定, 預金, 火災保險料, 受取手形, 電路費, 金銀勘定, 貯蓄品, 繰越水代, 委託品, 郵便貯金, 工場移轉費, 合算, 負債之部, 株入金, 借入金, 未拂入金, 使用人積立金, 法定積立金, 準備積立金, 前期繰越金, 未拂配當金, 支拂手形, 當期利益金, 右之通り二候也, 昭和四年十一月, 平製氷株式會社, 取締役 加納五郎

祝相馬支局開設

大須村 佐須 久米松太郎 飯樋小學校 校長 大内喜代伊 草野郵便局長 荻津村 新館長 荻津村 淺井八彌 草野登記所長 淺井八彌 原町營林署森林主事 熊上勝 醫師 垣谷禮藏 村會議會 澁佐常治 區長 菅野梅吉 材木薪炭商 新館村草野 小館村草野 木幡延次郎 助役 消防組頭 藏野治三郎 村會議員 山田茂治 上眞野村小池 安養寺

Advertisement for 朝日 (Asahi) cigarettes, featuring a factory illustration and text: 煙突は朝日, 石綿セメント製, 朝日煙突, 絕對に はぜない, やけにくい, 経済的で 火災の心配がたい.

Advertisement for 熱心湯 (Netshin-yu) medicinal bath, featuring an illustration of a person and text: 東西!! 東西!!! 不老長壽をお望みの皆様へ御披露申し上げます。此の度平町 七丁目 熱心湯 が出来

Advertisement for 平製氷株式會社 (Hei Seiryu Kaisha), featuring text: 平製氷株式會社, 取締役 加納五郎, 昭和四年十一月, 右之通り二候也.